

子ども教育 通信



子ども向け運動遊び「ボール取り」。大事なのは子どもの気持ちになって遊ぶこと。



教える力が身につく授業 体育 I



**自分らしい教え方を見つけて、
運動の楽しさを伝えてほしいです。**

この授業では、主に「運動に関する専門知識」と「からだを使った遊びの指導法」を学びます。今回は「模擬授業」です。それぞれが遊びを考案し、順番に先生役となってルールを教えます。その際、他の学生は子ども役として説明を聞き、実際に遊びを体験します。ポイントは、模擬授業を繰り返す中で、自分に合った運動の教え方を見つけていくこと。反応を見て改善点を考えたり、他の学生のやり方を参考にしたりしながら、自分の強みを活かす方法を身につけていってほしいです。そして将来的には、体を動かす「楽しさ」を引き出すような教え方に発展させることが大切です。「楽しさ」は運動への子どもの積極性を育み、これから歩む長い人生における健康を支えます。



子ども教育学科
出村友寛 准教授



子ども教育学科2年
平山 勝大
| 羽水高校出身 |

**運動の嫌いな子どもでも、
「楽しい!」と思える教え方を。**

今回、考案したのは「一方向にのみ逃げる鬼遊び」です。ルールの設定が不十分で、想定通りにいきませんでした。改善点はわかったので次に活かしたいです。この授業では、教える側である先生と教わる側の子ども、両方の気持ちを体験できます。運動に意欲がない子ども「楽しい!」と思えるような授業を考えていきたいです。



子ども教育学科 活動レポート!

子ども教育学科の学生たちは、ゼミや課外活動を通して様々な経験を積んでいます。
それぞれの活動で感じたこと、考えたことは、きっと、教育にも活かってくるはずです。

地域のイベントに参加! ～ワークショップで、親子のものづくり体験～

今年も、子ども教育学科の学生と教員が「おもしろフェスタ」(7月27日・28日)、「越前ものづくりフェスタ」(9月15日)、「鯖江ものづくり博覧会」(10月27日)等に参加し、ワークショップを行いました。制作したのは、楕円形のケースにビー玉を入れたおもちゃや、二つの円盤を組み合わせたおもちゃ。坂道に置くと、不思議な軌跡を描いて転がります。おもちゃづくりを通して、たくさんの親子にもものづくりの面白さや不思議さを体験してもらうことができました。



ホームカミングデー、開催! ～子ども教育学科開設10周年記念～

大学祭期間中の恒例行事として毎年開催しているホームカミングデーに、今年も大勢の卒業生が来学しました。石川昭義学部長が「福井県保育人材センター」の紹介をした後、教員と卒業生の懇談が和やかにスタート。幼稚園・保育園・認定こども園や小学校、企業などそれぞれの勤務先での悩みなどを抱えつつも社会人として成長した姿が見られました。来年のホームカミングデーも、ぜひ多くの卒業生に近況を話しに来てほしいと思います。

文化のフィールドで活躍する先輩たち

演劇で鍛えた表現方法を、
子どもとのコミュニケーションに。



子ども教育学科1年
畑 空吾
| 羽水高校出身 |



地元の劇団に所属し、演劇活動を行なっています。別の誰かになりきる時間はとても楽しいです。地域にゆかりのある人物を演じることで、地域に詳しくなれるのも魅力です。また、発声の大きさ、話すスピード、体の動きなど表現の工夫は、子どもに何かを伝えることにも通じると感じています。さらに役を演じることは、人の気持ちを想像することでもあるので、子どもたちもぜひ演劇を体験してもらいたいです。

絵本「半夏生鯖物語」が完成しました。



江戸時代に始まり、福井県大野市に今も伝わる風習、「半夏生鯖」。夏至から11日目の「半夏生」に、サバの丸焼きを食べます。今回、その由来を子どもたちにわかりやすく伝えることを目的とした絵本「半夏生鯖物語」の制作に参加しました。伊東知之教授と石川昭義教授が物語の文章を担当し、私は各シーンを表現する絵を描きました。幅広い世代の人に親しんでもらえるよう、水彩色鉛筆で優しく表現することを心がけました。



認定こども園 保育教諭
平野 友佳子
子ども教育学科
平成30年度卒業